感動旅の栞-4（ルクセンブルク 編）

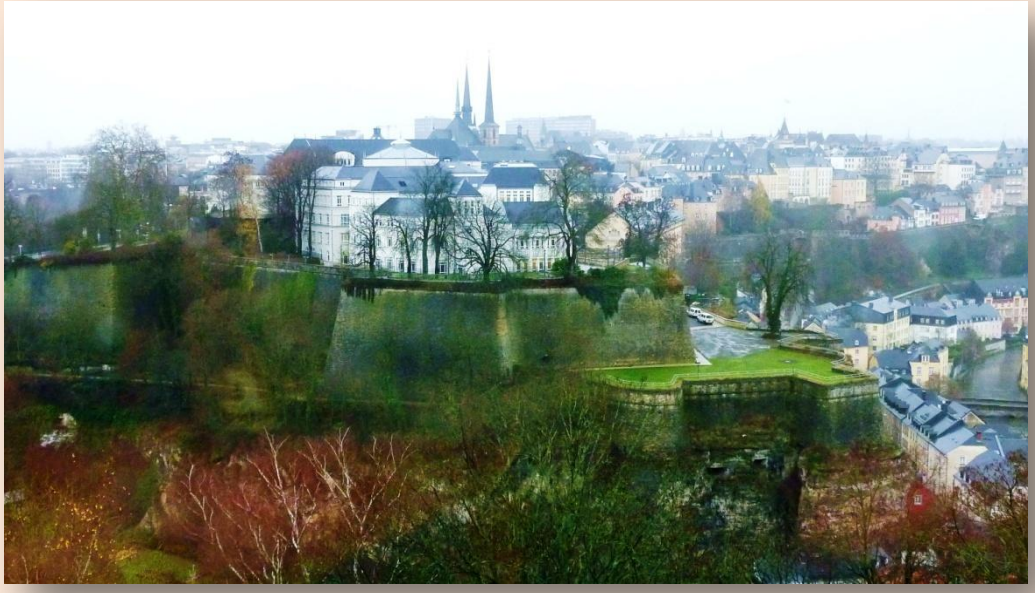
鈴木隆司 記

”成田発 感動の旅-ing” と題してブログをアップしてきた。 その中から、印象的だった写真を旅の栞として綴ります。

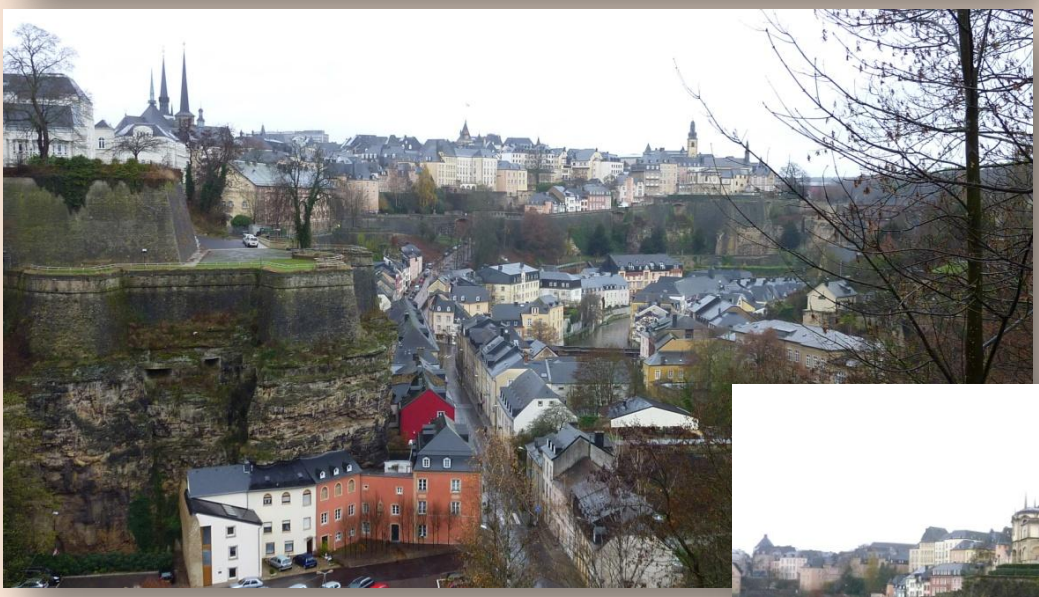
今回の紹介： ルクセンブルク編

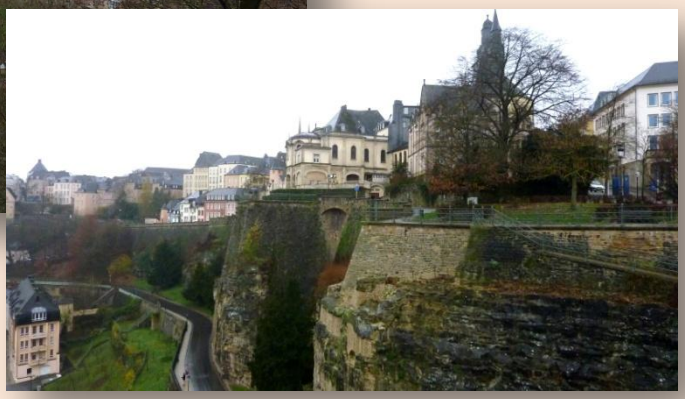
ルクセンブルク大公国紹介：
世界唯一の立憲君主制国家でベネルックス3国の一つ。
神奈川県とほぼ同じ広さ、人口 50 万人弱の小国だが、一人当たりの GDP はダントツ世界一で、日本の 2.5 倍。 付加価値の高い国外企業の持ち株会社や資産管理会社等が多く置かれ、国の産業の約 8 割が金融、一流の銀行をはじめとする第 3 次産業や、国際機関が置かれている。

因みに、世界最大の鉄鋼会社であるアルセロールミッタル社は、この地に本社を置いている。

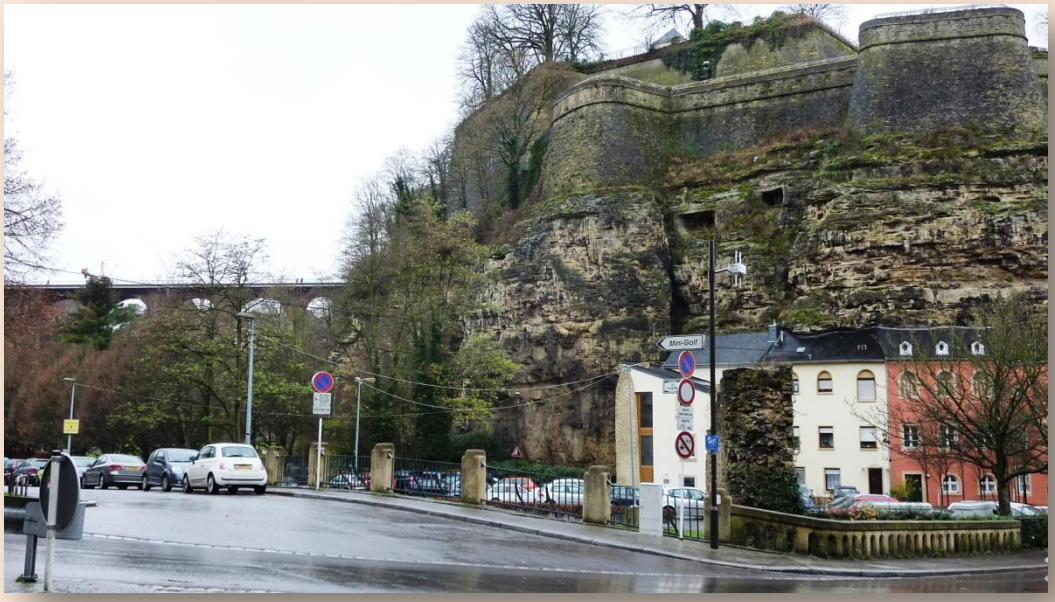


旧市街は、深い渓谷に囲まれた岩の断崖絶壁が造り上げる堅固な城砦都市で、長い間難攻不落の都市だった。





オーストリア軍によって断崖絶壁に作られた地下要塞跡。
当時は、断崖絶壁上には沢山の砲台が設置されていたそうです。



戦後建てられたと思うのだが、厳めしい地下要塞の真下に可愛い住宅が。 それだけにその雰囲気のコントラストが際立つ

渓谷の上に架けられた新市街から旧市街へと結ぶ高架橋を渡ると、各国の銀行が集まる金融街の建物が並ぶ。

昔は鉄鋼で栄えていたが、今では金融業に産業大転換して成功したのだという。

国の舵取りが凄い。

石畳に石造りの建物が並ぶ、しっくりとした街並みだ。 どこもここも、絵になる！

日本風に言えば下町なのだろうか？　グルント地区。
アルゼット川に沿って静かに佇む可愛らしい修道院、紺色の屋根にクリーム色または白壁の住居が並ぶ。 何処を撮っても、どんなアングルからでも絵になる景観だ。